

乳がん患者における Oncotype DX を用いた予後予測について

乳がんは女性で最も罹患率の高いがんであり、中でもホルモン受容体陽性 HER2 陰性の乳がんは約 70% を占めている最多のサブタイプである [1]。乳がん症例の多くは早期に発見され、結果として治療を受ける症例の大半が早期乳がん患者である。早期乳がん患者の多くは、術後に内分泌療法を 5 年以上受けることが標準治療とされており、加えて化学療法を受けることで再発や死亡のリスクを低減することが期待されるため、化学療法が上乘せされる [2]。しかしながら、ホルモン受容体陽性 HER2 陰性の早期乳がん患者において化学療法を行うか否かは、腫瘍のサイズやリンパ節転移の有無、悪性度などを参考に決められており、学会やガイドラインによる明確な基準は確立されていない。化学療法は疲労や悪心、脱毛といった一時的な副作用のリスクだけでなく、認知機能障害や不妊症、心機能障害等の長期的合併症のリスクや生活の質 (QOL) の低下にも影響を与えるため、リスクを超える有効性がある患者に対して行うことが求められている。化学療法による上乘せ効果が得られるか否かは個人差が大きく不確実であり、化学療法が有用でない症例に対しても行われているのが現状である [3]。

以上の背景から、浸潤性乳がん患者における化学療法の要否の決定を補助することを目的として開発されたのが“Oncotype DX”である [4]。この Oncotype DX を用いることで、不要な抗がん薬を使用せずに済むほか、再発の可能性を予測し治療戦略を立てることが可能になるとされている。

本抄読会では、ホルモン受容体陽性 HER2 陰性のリンパ節転移なしの早期乳がん患者に対して、Oncotype DX を用いた予後の検討が行われた比較試験である TAILORx 試験について紹介する [5]。

【参考文献】

- [1] がんの統計〈2023年版〉 がんの統計編集委員会編.
- [2] Gradishar WJ, Moran MS, Abraham J et al. NCCN Guidelines® Insights: Breast Cancer, Version 4.2023. *J Natl Compr Canc Netw*. 2023; 21(6): 594-608.
- [3] Eifel P, Axelson JA, Costa J et al. National Institutes of Health Consensus Development Conference Statement: adjuvant therapy for breast cancer. *J Natl Cancer Inst*. 2021; 93(13): 979-989.
- [4] 乳癌診療ガイドライン 2022年版 日本乳癌学会編.
- [5] Joseph A, Sparano MD, Robert J et al. Adjuvant Chemotherapy Guided by a 21-Gene Expression Assay in Breast Cancer. *N Engl J Med*. 2018; 379(2): 111-121.